

## とびひと入浴

# とびひ (伝染性膿痂疹)

夏になると、必ず多くなる皮膚の細菌(バイ菌)による感染症です。

早めに見つけて、軽いうちに治療することと、とびひにならないように、普段から皮膚を清潔にして予防することが大切です。

とびひは、皮膚が不潔になるとよりひどくなります。皮膚を清潔にするためには、「入浴」はむしろ必要ですし、石鹸を使うことも大切です。

強くこすってはいけません。また、とびひがぐちゃぐちゃしているときは、シャワーか掛かり湯のみにしておいてください。

予防のためにも、夏場は毎日欠かさず入浴し、日中も汗でベトベトの状態なら、何回でもシャワーを浴びて下さい。自宅では、きれいな水でのプール遊びも、皮膚をきれいにしてくれるので、あせもやとびひの予防に効果的です。



世界の  
子どもに  
ワクチンを

日本委員会

# とびひ（伝染性膿痂疹）



## とびひとは

すり傷や虫さされ、あせも、湿疹などに化膿菌が入りこんで水ぶくれができます。これをかきこわした手で他の場所をかくと、そこにまた水ぶくれが「とびひ」します。夏に多い病気です。



直径数ミリ～数センチの水ぶくれ  
四肢、躯幹にできる



こんなときはもう一度診察を

- ① 熱が出たとき。
- ② 2日以上たっても水ぶくれがふえるとき。
- ③ 顔や体が赤く腫れてきたとき。



## 治療

- ① 飲みぐすり：抗生剤を飲んで、体の中から化膿菌をやっつけます。指示されたとおりに、最後まで飲んでください。
- ② ぬりぐすり：抗生剤の入った軟膏をぬります。毎日2～3回ぬりなおしてください。



## 家庭で気をつけること

- ① お風呂：先生が禁止した人以外は、シャワーで石けんを使って体のよごれを洗い流し、そのあと軟膏をぬってください。
- ② 手を洗う：爪は短く切り、毎日何度も石けんで手を洗いましょう。
- ③ プール：とびひが乾いてかたまるまでは入らないようにしましょう。
- ④ 保育所：とびひの程度にもよりますが、1～2日休んでもらうことがあります。

とびひは、黄色ぶどう球菌（化膿菌）による皮膚の感染症です。この菌は、少しずつは誰でも皮膚の表面などにくっついていますが、もともと皮膚の弱い子どもたちは、夏場、さらに抵抗力が落ちる一方、菌の増殖力が強くなるので、とびひになりやすいのです。

鼻の入り口の粘膜に菌がついているため、とびひが鼻から始まることがよくあります。また、脇の下、ころんだ傷、虫さされ、あせもやアトピー性皮膚炎のひっかいたあとなどにも、できやすいです。

一度どこかにとびひができると、こすれたり、ひっかいたりして全身のあちこちにひろがるので、「飛び火」という名前がつけられています。